茨城県立図書館ボランティア会通信紙

カガヤキ

No.50(2020.8.15 刊行)、広報委員会編集
県立図書館発行
禁複写転載©広報委員会

特別企画 館長からのご挨拶

これからの図書館

茨城県立図書館長
山田順一

県立図書館長の山田でございます。

県立図書館ボランティアの皆様には、日頃から各分野での活動で図書館サービスに御協力をいただき、心より感謝申し上げます。

県立図書館は、現在の場所に移転開館して 19 年目を迎えました。図書館資料の収集整備と利用環境の工夫・改善、資料の利用促進及び館内外サービス活動の充実・強化を図り、県民の生活の向上及び文化の発展に寄与するため、職員一同、日々の業務に取り組んでいるところでございます。

一方、図書館の運営やサービスの提供は、当館職員だけではとても対応できるものではございません。開館とともに発足した県立図書館ボランティアの皆様のお力添えが必要不可欠であります。

こうした中、本年度は新型コロナウイルスによる感染拡大の懸念から、ボランティア活動が一時全面休止となりました。そのため、図書館自体も臨時休館となったことはもとより、図書館サービスの提供の面でも大きく後退を余儀なくされております。

当館におきましては、このような状況下で、各分野における県立図書館ボランティアの皆様が、いかに安全・安心に活動できるかを模索してまいりました。その結果、一部のボランティア分野につきましては、活動を再開できましたが、未だに活動ができないボランティア分野もございます。感染拡大が収束に向かい、すべての分野で安全・安心にに活動していただけることになりましたら、引き続き当館に対する御協力をお願い申し上げます。

続きまして、本年度の県立図書館の主な取組について、御案内いたします。

はじめに、図書館の資料整備についてでございますが、国際化、情報化，高齢化等、社会の動向を的確に捉え、利用者の需要を適切に反映させるため、働き方改革や地域医療・福祉に関する資料など、時代のニーズに沿った資料や児童資料、郷土資料などの収集に力を入れてまいります。

次に，図書貸出サービスについてでございますが、利用者のサービス向上・負担軽減を目的として、インターネット予約による遠隔地貸出サービス「ぶっくびん」を本年 2 月から開始いたしました。これまでは、当館所蔵の図書資料を借りたい場合

は、直接、県立図書館に来館しなければならなかったものが、インターネットを介して、利用者は近くの市町村立図書館で、県立図書館の資料を借りることが出来るサービスとなっております。

今年度は、38 市町村、51 図書館で、「ぶっくびん」が利用可能です。

さらに、今年度は、県立図書館内のエントランスホールに、カフェをオープンする予定です。

現在、県立図書館の利用者は、減少傾向にありますが、県民の交流空間を創出するためのカフェを開設することによって、新規の利用者を獲得するとともに、カフェでコーヒーを飲みながら好きな本を楽しむ等、新たな利用の形を提案し、利用者にとって魅力あるサービスの提供に努めてまいります。

結びに、今後ともボランティアの皆様におかれましては、県立図書館におけるサービスや普及活動が、ますます充実・発展するよう、引き続き御協力を賜りますようお願い申し上げ、あいさつといたします。

令和 2 年 7 月 7 日

編集後記

一世紀に一度あるか否かというまれなウイルスである新型コロナウイルスによる世界の感染者数と死亡者数は、膨大な数に達しており、いまなお、収束していません。そのため、慎重な対応が必要です。

県立図書館のボランティア活動では、現場でなければできないこともあれば、自宅でもできることもあり、後者に分類されるものは、「広報」と「郷土資料」と「外国語資料」のグループの作業です。たとえるならば、最近、世の中でよく使われている言葉である「在宅勤務」のようなものです。

広報グループは、国内外のどこにいても、Wi-Fi(Wireless Fidelityの略)を利用し、県立図書館の担当職員とのメールのやり取りにより、作業を進めることができるため、新型コロナウイルスの影響を受けることはありません。

世の中の在宅勤務では、一人で、メールのやり取りによって対応できる仕事もありますが、そうではなく、数名か数十名の人達と同時にリアルタイムで、顔を見ながら、意見のやり取りをしなければならない仕事もあり、後者の場合には、PCソフトとして、世界的に、「ZOOM」と「MEET」が、採用されています。

広報グループでは、「MEET」をインストールし、利用できるようにしてあるものの、実際には、利用するに至っていません。しかし、世の中に遅れないように、いつでも、対応できるようにstand by状態にしています。

web時代になり、書籍離れ、結果として図書館離れ進行中であり、国内外、国公私大図書館、県立図書館、市町村立図書館の相違を問わず、利用者数の減少という問題を抱えています。その対策として、さまざまな施策が、実施されています。

土浦市立図書館では、JR常磐線土浦駅

前に複合施設のメインテナントとして図書館を移転し、買い物の途中でも立ち寄れるようにしました。多く採用されている改善策は、誰でも、いつでも、気楽に集える「コミュニティーセンター」のような機能を備えた図書館です。

県立図書館長には、図書館を巡る社会背景を汲み取っていただき、「これからの図書館」と題し、県立図書館で実施中の対策について執筆していただきました。

今後も、県立図書館職員とボランティアが、将来に明るい話題を見いだせるような内容の原稿を掲載する方針です。

館長の挨拶に記されているとおり、県立図書館のエントランスホール全体に、カフェコーナーが工事中であり、新型コロナの影響もあり、カフェの完成時期については、7月現在未定です。どのようなデザインなのか、関心があります。

ですから、あらためて、館内を探索し、取材を兼ねて、写真撮影のみならず、カフェコーナーの雰囲気とコーヒーの香りとおいしいショートケーキなどの味も報告する予定です。

次の通信紙No.51には、カフェコーナーの魅力が伝わるような、誰しも、ぜひ、県立図書館に足を運んでみたいと感じられるような特集記事を掲載したいと考えています。

桜井　淳